

一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録

□日時	平成25年8月7日（水）	13:30～15:30
□場所	甲斐駒センター「せせらぎ」	
□出席者	133名	
	（内訳）PTA関係者	102名
	市町村教育委員会関係者	28名
	一般	3名

1 図書館の役割について

（質問・意見）

- ・ 県立図書館の一義的な役割は県下市町村立図書館の支援があると思うが、県下市町村立図書館への支援に対してどのような施策を行っているのか？
- ・ 資料収集費が削られており、地域住民が必要とする資料がなかなか手に入らない。
- ・ 地域の図書館がほしいと思う資料を迅速に提供してもらえるような環境整備をお願いしたい。

→社会教育課総括課長補佐

- ・ 市町村司書に対する研修や各市町村から要望される本の配送などにより連携を深めて行く。

→高野教育委員長

- ・ 阿刀田県立図書館長は「図書館というのはまずは人、2番目に本、3番目に施設」と強く言っていた。
- ・ 図書館の果たすべき役割は、人々の生活を支える機能を満たす場所、情報を集める場所であり、必ずしも図書館は本を借りたり読んだりするだけの場所ではない。
- ・ 市町村の図書館もどのような支援が必要か明確に意思表示することが必要。
- ・ 市町村図書館には地域の人々の生活を支えていくという機能を明確にしていくことが必要。
- ・ 先ほど事業説明の中に「家読推進運動」というものがあつたが、読書は自ら手を伸ばすことが重要であり、家読とか読み聞かせはあくまできっかけ。

2 やまなしの教育振興プランについて

（質問・意見）

- ・ 現在のやまなしの教育振興プランは平成21年度から平成25年度までの計画期間であるが、平成26年度以降はどのようなになるのか。

→総務課長

- ・ 新たな教育振興プランの作成に向け、外部の有識者で構成する策定委員会を設置し、新しい計画の基本的な方向性について議論をしているところ。
- ・ 最終的には11月頃答申をいただき、平成26年度からは新たな教育振興プランに基づいて施策を実施する予定。

3 学校教育について

(質問・意見)

- ・「ゆとり教育」について県教育委員会としてどのような総括をしているのか。
- ・夏休みの宿題については、各学校が決めているのか、それとも市教育委員会が決めているのか。
- ・道徳教育と教員のモラルに対する指導について県教育委員会としてどのようなことをしているのか。

→義務教育課長

- ・県としてはいつの時代でも子どもたちが身に付けなければならない力は何かということ常を常に考えて、その都度学力向上の対策を講じてきた。
- ・今現在においてもあらゆる手立てを講じて学力向上対策を第一に取り組んでいる。
- ・夏休みの課題については、市町村や県ではなく、基本的には各学校がよりよい夏休みの課題とは何かを考えながら決めている。
- ・山梨県はかなり前から道徳教育に力を入れている。
- ・全国的な調査においても、道徳的によい回答をした子どもの割合は全国的にも高い。
- ・教職員に対するモラル教育については、あらゆる機会を通して、教育委員会や各学校長からきめ細かい指導を行っている。
- ・特に若い教職員に対しては、学校長が一人一人に対して個別に指導を行っている。

→杉原教育委員長職務代理者

- ・世界で必要とされているのは、知識の量よりも知識を活かして新たな問題を見つけて自分なりに問題解決していくという力。
- ・そういった力が「ゆとり教育」世代の学生や教員を目指す若者に育ってきていると感じている。

→長田委員

- ・「ゆとり教育」世代の先生たち自身も自分の教師としてのアイデンティティーを獲得するのに困難を抱えていると感じる。

→高野委員長

- ・「なぜ学ぶのか」という問いに対して、私の答えは「よい社会人になること」。
- ・現在、新教育振興プランの策定委員会の中でも、社会が今どのような人を必要としているのかという切り口で教育の在り方を議論している。
- ・「ゆとり教育」は否定するのではなく、「ゆとり教育」の中から生まれてきたものは何だったのかということを検証しながら、新たなプランの策定作業を行っている。

4 キャリア教育・職業教育について

(質問・意見)

- ・「キャリア教育」や「職業教育」は企業の歯車を作っているだけという印象を受ける。
- ・技能や技術は社会人になってからでも身に付けられる。
- ・それよりも人としてどう生きていくかを教育すべき。
- ・山梨県全体の労働環境が非常に悪く、職業人を育てても就職先がない。
- ・自分が生き抜くためだけの教育をすることであれば方向が違うと感じる。
- ・子どもたちが自分のためだけでなく、周りの人たちのために存在しているという気持ちでいてくれたら地域は良くなるのではないかと。

→高校教育課長

- ・キャリア教育は自立した社会人を育てていくことが大きな目標。
- ・今まで学校教育では、社会のことをあまりにも知らない子どもが多かった。
- ・技能検定などの技能の習得は工業系の高校において、産業界からだけでなく生徒からも強い要望がある。
- ・工業系以外の高校においてもインターシップなどを通じて今後どのような社会人として生きていくかということを教育していきたい。

→白川教育委員

- ・技能検定などの目標に向かってチャレンジすることで生徒たちは自主性が養われる。
- ・こうした経験を通して技術を習得する以上に人間として大事な部分を学ぶことができる。

→高野教育委員長

- ・就職先がないということは、全くそのとおり。
- ・教育委員会がどこまで関われるか分からないが、どういう人材を供給できるのかという問題もあるので、あきらめずに人づくりを進めていく。

→杉原教育委員長職務代理者

- ・今の小学生の約半数が将来正規職員に就けない。
- ・そういうことを子どもたちにも教えるという意味で、身の回りで働いているいろいろな人たちの姿をみせることが必要。
- ・今の子どもたちは学ぶ目的、学ぶ必要性を理解していない。
- ・今自分のやっていることがどのように社会に役に立っていくのかということをお教へれば学ぶ意欲が出てくるのでは。

5 いじめ問題について

(質問・意見)

- ・自分の子どもが市の企画したサマーキャンプでいじめを受けて不登校になった。
- ・市からは謝罪があっただけで、その後は学校の対応と言われた。
- ・実際にいじめを受けた側は元の生活に戻るまですごきたいへん。
- ・県には市教育委員会からいじめの実態について報告があったり、指導したりすることがあるのか？
- ・県は現場任せにせず、現場でどのようなことが起きているか日頃から把握し、このようなことが起こる前に適切な指導をしてほしい。
- ・市教育委員会は謝罪して終わりにするのではなく、その後のきめ細かい対応が必要ではないか。

→義務教育課長

- ・県教育委員会としては、道徳教育や教育力の向上などにより、いじめが起らない学校づくりに取り組んでいる。
- ・それでも発生してしまったときは、スクールカウンセラー等の派遣により早期発見、早期対応による解決を心がけている。
- ・いじめの実態について県教育委員会として一つ一つ全ての事例を把握しているわけではない。

- ・基本的には学校からの報告により、市教育委員会が対応している。
- ・県教育委員会としては定期的にいじめ・不登校の調査をし、特別なケースについては市教育委員会に直接指導している。

→石川教育委員

- ・知事との意見交換会においても、スクールカウンセラー等の更なる充実を要請した。
- ・県教育委員会としても、早期発見・早期対応に努めているが、さらにスクールカウンセラー等の派遣を強く打ち出し、子どもの相談体制の充実に取り組んでいく。

→長田教育委員

- ・いじめの形態もどんどん複雑化し、発見しづらくなってきている。
- ・いじめにあった側としてどのようなことをしてほしいのか教えていただければ。

(保護者)

- ・「なんでうちの子が？」という当たり所のない気持ち。
- ・いじめは当事者だけでなく、家族を巻き込んでしまう問題である。
- ・謝罪して終わるのではなく、その後どのような対策が取られ、どのように指導しているかまで教えてほしい。

→長田教育委員

- ・実際に起こっている現実はなかなか外部に伝わって来ない。
- ・こういった公開の場で話をしていただいたことが、今後のいじめ防止策に役立っていくと思う。

→義務教育課長

- ・今の発言を重く受け止め、いろいろな方面でいじめ問題への対応を推進していきたい。

(質問・意見)

- ・いじめが起こる事前の対策には学校や教育委員会であっても限界がある。
- ・多くの場合、加害者側の家庭に問題がある。
- ・加害者側の家庭の問題についても勇気をもって指摘していかないと解決につながらない。

→瀧田教育長

- ・子どもたちの中に弱いものは守る心、少々辛くても跳ね返すばねをつくる必要がある。
- ・道徳と言うと難しく感じるが、「やってはならないこと」と「やらなければならないこと」だけ。
- ・そういった道徳を学校や家庭や社会で築いていかなければならない。
- ・それをリードしていくものとして学校や教育委員会が果たす役割はある。
- ・時間はかかるが、みんなで同じ目標に向けて協力していくことが大切。

6 全国高校総体開催について

(質問・意見)

- ・かいじ国体のときは全国から優秀な指導者を招いて山梨県全体のレベルをアップさせた。
- ・今回山梨県で全国高校総体を開催するにあたり、高校生に対して何か特別な活動をしているのか？

→全国高校総体推進室長

- ・各高校等 5 1 校からの代表生徒による実践委員会を中心に、PR 活動や実際の運営への協力など、一般の生徒も活動に参加している。
- ・選手について、高体連が競技種目別に指定する指定校制度や、体育協会を通じて行う県外遠征費等の補助などにより、レベルアップを図っている。

7 食物アレルギー対応について

(質問・意見)

- ・市町村によっては給食で食物アレルギーに対する対応ができていない市町村があると聞いているが、学校給食に対してどのような対応をとっているのか？
- ・給食以外の場面における食物アレルギーの問題について、どのような家庭との連携や指導をしているのか？

→スポーツ健康課長

- ・学校給食については、個別に指導しているが、地域ごとの事情もあるので、市町村の判断で順次対応していくこととなる。
- ・市町村に対しては県下全市町村で食物アレルギーに対応できるよう、養護教諭等への研修や情報提供を進めていく。
- ・家庭には医者診断に基づいた情報を提供してもらい、その情報を学校全体で共有できる体制を整えている。
- ・現在マニュアルの改訂を進めており、食物アレルギーを持つ子どもの保護者にも作業チームに入ってもらっている。
- ・全ての子どもに給食を体験できる体制づくりが目標となっている。